

近畿大学中央図書館 第18回蔵書展 「日独交流のはじまり」について

貴重書ワーキンググループ 蔵書展担当

近畿大学中央図書館では、毎年テーマを決め蔵書展を開催してまいりました。昨年は11月22日から28日まで日独交流150周年を記念し、第18回蔵書展「日独交流のはじまり」を開催いたしました。多数の皆様のご来場を賜り誠にありがとうございました。

今回の蔵書展では、テーマである「日独交流のはじまり」にちなみ、日本とドイツとの交流の歴史を彩る様々な資料および幕末外交史に関する資料を展示いたしました。

激動の幕末、1860年オイレンブルク伯爵が率いるプロイセン東アジア遠征団が江戸に来航し、幕府との交渉の末、日普修好通商条約が1861年1月24日(万延元年12月14日)に調印されました。昨年2011年は、この条約締結から150年目の年にあたり、ともに近代国家への道を歩む日本とドイツとの交流の歴史は、ここに始まりました。この時の随行画家ベルクは、150年前の江戸、長崎などの日本の風景を描き、スケッチを残しました。今回展示いたしました14点の絵は、そのオリジナルの原画です。現在に至るまでの日本とドイツとの交流の歴史に思いを馳せ、150年前の日本、江戸・長崎への旅をお楽しみいただけたのではないかと考えております。

これ以前、日本とドイツとの出会いは17世紀にまで遡ります。ドイツ人の学者たちがオランダ東インド会社の一員として相次いで来日し、日本を詳細に調査研究するとともに、ヨーロッパの新しい知識を日本に伝えました。ケンペル、シーボルトなどの流れがあり、現代においても学術研究における日独交流の黎明期を代表する重要な人物とされています。

その後、明治時代に入り1889年に発布され

た大日本帝国憲法の起草にあたっては、伊藤博文のドイツ訪問によって、ドイツの法学者およびドイツ憲法に多くの影響を受けました。

第二次世界大戦という不幸な時代もありました。今回の特別展示『アンネの日記』、『わが闘争』は、過去の歴史的事実を真摯に受け止め、平和への祈りを込めて展示いたしました。

また、23日には、総合社会学部の山取清先生に「フンボルトとニーチェ ドイツの教養理念の光と影」というテーマでご講演をいただきました。フンボルトの業績を中心に、ドイツが日本の教育制度をはじめ多くの分野に与えた影響について詳細にお話をいただきました。27日には、文芸学部の荒木康彦先生に「プロイセン使節団が見た幕末の江戸・長崎」というテーマで、プロイセン使節団来航の歴史的背景、ベルクの人物像などについて興味深いご講演をいただきました。その後、引き続き蔵書展会場においてギャラリートークを開催し、ベルクのスケッチ原画を中心に各展示品についてわかりやすい解説をしていただきました。

幾多の苦難を乗り越えて来た多くの人々の努力によって、現在に至る日独交流の歴史があります。本展が未来に向けた新たな日独友好関係を築く一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本展開催にあたり、ご尽力くださいました関係者各位に厚くお礼申しあげるとともに、今後とも、皆様の一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第18回蔵書展 アンケート集計報告

のべ来場者数：468人 アンケート配布枚数：440枚 うち 384枚回答（回収率87%）

ミニ講義出席者数 山取 清教授（23日(水・祝)13:00~14:00）「フンボルトとニーチェ ドイツの教養理念の光と影」→21名
 荒木康彦教授（27日(日)13:00~14:00）「プロイセン使節団が見た幕末の江戸・長崎」→35名

①所属

学生	171
院生	14
通信教育部生	14
教職員	73
卒業生	11
本学取引業者	11
他大学関係者	14
公開講座登録者	11
その他[一般]	60
無回答	5
計	384

学生/院生 学部・学年別内訳

	1	2	3	4	5	6	無回答	計
法学部	3	6	4	4			0	17
経済学部	0	2	1	3			0	6
経営学部	2	7	1	3			0	13
理工学部	5	6	3	6			0	20
建築学部	0						0	0
薬学部	1	0	1	1	1	1	0	5
文芸学部	25	26	23	11			0	85
総合社会学部	4	0					0	4
短期大学部	9	10					0	19
無回答	1	0	0	0	0	0	1	2
学生計	50	57	33	28	1	1	1	171
法学研究科	2	0	0	0			0	2
総合理工学研究科	2	0	0	0			0	2
文芸学研究科	7	0	0	0			0	7
法務研究科	0	0	2	0			0	2
農学研究科	0	0	1	0			0	1
院生計	11	0	3	0	0	0	0	14

一般来場者

府県別内訳	
大阪府	40
奈良県	5
和歌山県	0
兵庫県	6
京都府	1
三重県	1
無回答	7
計	60

②来場回数

今回が初めて	233
2回	58
3回	23
4回以上	70
計	384

③蔵書展開催を知った方法(複数回答可)

ポスター	140
チラシ	81
近テレ・学内放送	5
ホームページ	33
図書館からのメール	40
新聞	2
情報誌	6
教職員の紹介	153
その他	36
無回答	4

その他の主な回答

- ・ たまたま・通りがかり(図書館利用の際に見つけた)
- ・ 公開講座案内状同封のチラシ
- ・ 知人・友人(すでに来場した人)にすすめられて
- ・ 授業

④展示内容

よかった	343
よくなかった	5
どちらともいえない	34
無回答	2
計	384

よかった点

- ・ 貴重な資料を見れた
- ・ 解説がわかりやすかった
- ・ スケッチや絵がよかった
- ・ 知っている本の実物が見れた など

よくなかった点

- ・ 展示数が少ない
- ・ もう少し詳しい解説がほしい
- ・ 閉じている本の中が見たかった など

⑤展示会場

よかった	310
よくなかった	17
どちらともいえない	56
無回答	1
計	384

よかった点

- ・ 通路が広くてゆったり見れた
- ・ 疲れないで見て回れる広さなので丁度良い
- ・ 図書館に近いので寄りやすい など

よくなかった点

- ・ 狭い
- ・ 照明が暗い
- ・ 場所がわかりにくい (とくに学外者にとって)
- ・ 少し入りにくい雰囲気があった など

⑥開催時間

よかった	343
よくなかった	1
どちらともいえない	38
無回答	2
計	384

よかった点

- ・ 時間が長いので空き時間に来れる
- ・ 5限(仕事終わり)後でも来れる
- ・ 土・日曜日、祝日も開催している など

よくなかった点

- ・ 時間よりも開催期間を延ばしてほしい
- ・ もう少し開場時間を早くしてほしい など

⑦今後希望するテーマ

- ・ 和古書(主に古典籍)・日本史(主に幕末期、大正から戦前にかけても)・文芸作品の初版本・古地図
- ・ 外国の歴史(イギリス、オーストリア、中国、朝鮮など)・エジプト誌、活版印刷、美装本など以前の展示資料 など